

「心が変われば」(終業式式辞) 30. 7. 20

今日で、1 学期が終了します。一つの区切りとなる日だと思imasuので、皆さんには、4 月から今日までの自分の生活を、少し振り返っていただきたいと思imasu。

私からは、始業式に

- ①何をなすべきかを考えて、有意義な南高生活を送ろう。
- ②志を立て、心を耕し、言葉を磨こう。

ということをお願いしました。各自が立てた目標も含めて、その達成状況はいかがでしょう。少しは前進できているでしょう。

もし、まだまだ思い通りにやれていないと思う人は、今日から、あるいは明日からもう一度挑戦していただきたいと思imasu。その際の力になればと思imasu、次の言葉を紹介しmasu。

「心は行動を生み、行動は習慣となる。習慣は品性をはぐくみ、品性は運命を決する。心が変われば運命が変わる。」

この言葉は、ある先生が、修学旅行のときに京都の大徳寺

大仙院の尾関宗園和尚に、「人間はそう簡単に変わることはできませんね……」と生徒を導く上での悩みを持ちかけたところ、「いや、できる。人間の体には 60 兆個の細胞があるが、1 日 3 千億から 4 千億の細胞が入れ替わっている。今朝、鏡で見た自分の姿は、昨日と変わらないようではいて実は同じではない。変わらない人間なんていない。日々新しい細胞と入れ替わって数か月で、すべてが入れ替わっているのである。」と諭され、その時に和尚さんから頂戴した言葉です。「今からでも遅くはない。そう思って心を入れ替えて充実した日々を過ごしていけば、必ず運命は変わるのである。勝負はこれからだ。」と勇気づけられたということです。

例えば、これまでの自分を省みて、少しでも積極的になるために「笑顔で人に接することにしよう」と決意したとします。決めた以上は、できることから始めようと、まずは、「つくり笑いでもいいから笑顔で挨拶する」ことにしました。「心は行動を生む」ということです。最初はなかなかうまくいかなくても、友達に対してはどうかできるようになり、やがて初対面の人にも笑顔で挨拶ができるようになりました。「行動は習慣となる」ということでしょうか。やがて、笑顔はつ

くり笑いではなく、自然と相手を和ませ、ほっとさせるような素敵な笑顔になりました。そこまでになると、その人の「人柄」や「人格」の一部になります。「習慣は品性をはぐくむ」ということでしょうか。その「素晴らしい笑み」をたたえることができるようになった人は、例えば入学試験や入社試験の面接で、面接官の問いに対して、にこやかにきちんと自分の考えを伝えることができるようになります。その結果、人間性の良さを評価されて、見事合格の切符を手に入れることになるのです。まさに「心が変われば運命が変わる」ということでしょうか。

明日から、夏休みとなりますが、補習や部活動で忙しい毎日かと思えます。今からでも、決して遅くはありません。勝負はこれからです。「心が変われば運命が変わる」のです。